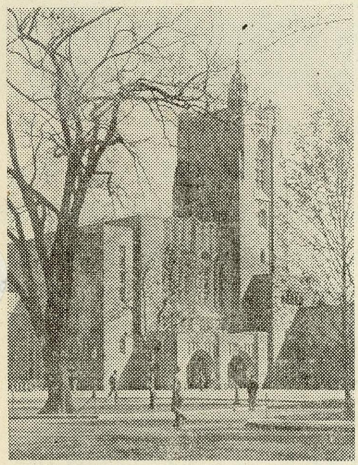
西南学院大学
図書館報

第29号
昭和40年12月1日発行
発行所 福岡市西新町798 電㊙0031
西南学院大学図書館
発行人 山下和夫


(*Firestone Memorial Library*)

ファイアストン ライブラリー

原田三喜雄

一年余りのアメリカ滞在中、資料蒐集や大学訪問などで各地の図書館をおとずれる機会があった。ワシントン D・C の The Library of Congress、ニューヨークの Public Library、フィラデルフィヤの Free Library といった公立図書館から、ハーバード、エール、デューク、ラトガース、ノース・カロライナ、ミシガン等の大学図書館 etc。

しかしながら私が最も世話になりまた思い出も多いのは、研究生活をおくったプリンストン大学の、寄贈者 Harvey S. Firestone の名を冠する Firestone Memorial Library である。大学にはこの外に自然科学関係の図書室がキャンパス内にいくつかに分散され、新しい美術館も建設中であったが、大学のもつ 100万余におよぶ社会科学・人文科学関係の図書は、ほぼこの図書館にあつめられていた。一見古い外観ながらも、書庫・研究・授業の三つの機能を同時にはたすよう工夫されている点で、数多いアメリカの大学図書館のなかでも、きわめて新しい形式の、大学ご自慢の図書館であった。地上三階、地下三階からなるこの館内には、Gest東洋文庫、中近東関係のGarret コレクション、南北戦争関係の Pierson コレクションや J. V. Forrestal, F. S. Fitzgerald, W. Wilson, J. F. Dulles 等の卒業生のコレクションも収められていた。また研究室、演習室、L・L教室のほかにランチルーム、ラウンジももうけられていた。図書も、稀覯本をのぞいて、西南のように開架式 (open stack system) なので、われわれ利用者にはすこぶる便利であった。そのかわり、退館のさいに出口でカバン・本等の所持品を係員に提示することになっていた。開館時間は、日曜が午後2時からになっているほかは、学期中朝の8時から夜の12時までになっていたので、ここで教授はおそくまで研究の調べものをし、学生達もまた授業の予習をレザーブブック・ルームで過ごすのであった。娯楽施設に乏しい小さな大学街で、この図書館は勉学のいわば主要な舞台であった。

私もさいわい館内にある carrel(特別読書室)の一つを使用することを許された。そして汗牛充棟をなす蔵書から自由に好きなものを選び、自分の手で簡単な手続をするだけで、その中へ持ち込み、誰からも煩わされずに読書にふけったり、ペーパーを書いたりすることができた。また日本の文字やニュースが恋しくなると、よく二階にある東洋文庫に日本から届く新聞・雑誌を読みにでかけた。この図書館で過ごした留学生活の日日を、私はおそらく忘れることができないであろう。

(経済学部助教授)

私の読書法

坂本重武

「私の読書法」という題を与えられた。私は英語の教師だから、英語の読書法について書いて見たいと思う。

日本で英語教育を受けたものは、文字で書いた英語は読めるけれども、自分で英文を書いたり、話したり聞いたりするのは不得手のものが多いと一般に言われている。私の場合も大体そうだと思っていた。ところがアメリカの大学でしばらく勉強して見て必らずしもそうでないことに気がついた。作文も下手だし、会話ももちろんまずいが、読む方に至っては更に大きなハンディキャップがあることに気がついた。辞引を手許に、頭をひねりながら英語を読んでいては到底外人に太刀討ちができないのである。教室では英語をいかに正確に読むかということを学ばなければならないが、同時に一体どうすれば、英語の新聞や小説を速く読めるかということも研究しなければならないのである。

私が生れてはじめて乏しい小遣いのなかから買った原書は「シャーロック・ホームズの冒険」であった。それは中学4年の時であった。しかし、その最初の短篇の第1節につまずいた。今読んで見ると何でもない文章だが、少年の頭と、「英文解釈法」式の英語読解力ではとうていわからなかったのである。その後旧制高校にはいって、一週9時間も英語をきたえられて、だいぶ読む力がついた。その頃誰からともなく英語の本を読もうとするなら、翻訳小説からはじめたがよいということを教わった。そのころは、フランスやロシヤの小説の英訳がザラ紙、紙表紙で50銭ぐらいで手に入ったので、私はモーパッサンの短篇集や、「女の一生」などを買って読んだ。イギリス人が書いた小説にもいろいろ難易があるが、概して、idiomatic であるためにむつかしい。そこへいくと、翻訳小説はどことなく読み易い。「女の一生」だの「復活」だの、かなり長いものを夜遅くまで読みふけって、やがて一冊読み上げた時の嬉しさと自信と、そして更に次ぎの本を読みはじめようとする楽しさ。もう一度あんな気持で本を読みたいなあと今頃なつかしく思い起こすのである。そうしているうちに、「スケッチブック」や「緋文学」「テス」なども手がけるようになった。大学で学ぶ英語の教科書はせいぜい100頁ぐらいの短かいものが多い。しかし、もっと長いものを読んで見たいと思うひとがあったら、まず翻訳小説からはじめてみるがよいと思う。そして、数百頁のものを一冊あげてごらんなさい。きっと英文を読む楽しみとそしてもっと読みたいという意欲が出てくるであろう。ちょうど今は長夜の時である。今夜からでもはじめるのはどうですか。

（図書館長）

告知板

○ **冬休長期貸出**　12月18日（土）から冬休長期貸出を行ないます。冊数は2冊以内、期限は41年1月14日（金）までです。

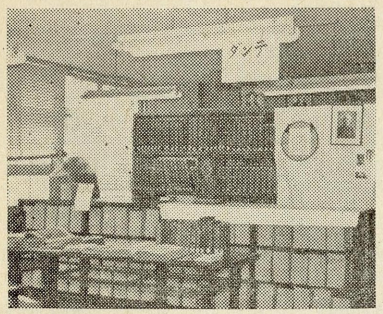
○ **卒論特別貸出実施中**　4年次生で卒業論文作成中の人には、3冊1カ月間の特別貸出が認められます。ゼミ担当教授の証明が必要です。希望者は係まで。

○ **卒論製本代金について**　卒業論文は、製本の上図書館に保存されることになっています。そこで、卒業論文の提出に際しては、製本代金を経理課に納入し、その領収書を添えて教務課に論文を提出して下さい。製本代金は、

商学部・経済学部学生 1人　150円
文学部英文学科学生　1人　50円

○ **年末年始の休館**　年末年始の開館・休館は次のとおりです。

12月25日（土）　休館
12月27日（月）　開館（正午まで）
12月28日（火）～1月4日（火）　休館
1月 5日（水）～ 7日（金）開館（午後5時まで）
1月 8日（土）～　平常開館



図書展示会報告

さる11月8日・9日の2日間、大学祭行事の一環として図書の展示会を行なった。本年は、故波多野培根先生の歿後20年に当るので、先生の学院に遺された蔵書である波多野文庫 2,357冊を展示して先生を偲ぶとともに、ダンテ生誕 700年を記念して、ダンテ関係の作品（図書70冊、雑誌8点）を展示したのである。

会場は2階の閉架書庫を開放し、学生へのクローズド・ブックのPRをもねらったのだが、入場者は割に少なく、2日間で77名に過ぎなかった。　（写真は展示会場）

■ 図書寄贈者

○ 故高津英雄教授

さる9月14日死去された高津教授の御遺族から故人の蔵書（図書600冊、雑誌10種）がそっくり寄贈されたので、高津文庫として整理する予定である。

○ 宮本堯夫助教授

「現代中国文学全集」　他　52冊

○ 村田賢一郎氏（村上寅次教授経由）

「おやじの記録」　（同氏著）

○ 天理図書館

「吉田文庫神道書目録」

「善本写真集24　聖書」　他1冊

■ 会　議

○図書館委員会

- ⊙ 40. 4.24　科目別図書費配分について審議
- ⊙ 40. 6.19　私大助成金申請・「四部叢刊」到着について報告、開館時間の一部変更について審議
- ⊙ 40.11.18　図書館視察の件報告、昭和41年度経常予算請求について審議

■ 研　修

○大学図書館研究集会　8月6日～10日　於　同志社大学

伊藤司書出席（整理部門）

○私大図書館協会西南地区研究会　9月14日　於　松山商大

山下司書長出席、ドキュメンテーションについて協議。

○大学図書館職員講習会　10月26日～29日

於 岡山大学　杉本司書出席（整理部門）

■ 雑誌アンケートの結果について

新規に購入する雑誌について、学生諸君の希望を調査するためアンケートを実施したが、その結果は次のとおりで、余り目立った希望はなかったようである。

調査期間　40.10.18～10.23　6日間

〃 対象　入館学生

〃 結果　アンケート配布枚数　226

〃　回収枚数　44（19%）

希望雑誌は、「週刊朝日」と「暮しの手帖」がいずれも4票で最も多く、あとは全て2票以下で目星しいものはない。図書館では、この結果に基づき、「週刊朝日」を新春から備付けることにした。「暮しの手帖」は目下検討中である。

図書館視察委員の実地視察

昭和40年度から、文部省大学学術局の中に、大学図書館視察委員制度が設けられ、大学図書館の重要性に鑑み、その実態を視察してその指導助言に当ることとなった。その最初の試みが、本学と九大、福大の三大学について実施されたのである。本学は、11月30日（火）、伊藤四十二（東大図書館長）、吉武泰水（東大工学部教授）、斉藤敏（日大法学部教授）、高井望（玉川大図書館長）の各委員と井上繁（情報図書館課長補佐）担当官が、本館、研究所、神学科図書館をつぶさに視察され、また図書館の運営や活動状況について詳細な調査をされた。とくに本館の特色とする開架制度について、またきたるべき図書館建築計画について、その道の専門家のご意見を伺うことができて大変有意義であった。この実地視察はひきつづき全国各地の大学図書館について行なわれる予定だそうであるが、その活動と成果が期待されている。

昭和39年度 図書館統計

▶ どんな内容の本がどれだけ増加したか

(昭和39年度増加冊数)

区分＼内容	総記	哲学宗教	歴史	社会科学	自然科学	工業	産業	芸術	語学	文学	計
和	236	419	334	1.727	292	196	351	216	143	424	4.338冊
洋	64	238	85	351	90	46	70	18	186	294	1.442冊
計	300	657	419	2.078	382	242	421	234	329	718	5.780冊
前年度	374	713	276	1.866	347	231	432	178	126	802	5.345冊

▶ 雑誌や新聞、視聴覚資料などもふえているか

区分	定期受入雑誌		定期受入新聞		計
	購入	寄贈	購入	寄贈	
和	132	187	11	21	351種
洋	54	8	6	0	68種
計	186	195	17	21	419種

視聴覚資料		
レコード	スライド	計
34	1	35点

その他　マイクロフイルム　8巻
　　マイクロカード　1点

▶ それでは、この一年間、図書館はどれだけ利用されたか

＜昭和39年度入館者数（学生）＞

学科別	前年度	昭和39年度
神学科	7	32
英文学科	23,438	24,321
商学科	29,528	24,037
経済学科	25,580	27,785
短大児教科	207	219
その他	135	99
計	78,895	76,493

入館者数は前年度にくらべて幾分減っているのが目につきます。殊に、商学科が激減しています。これは、経済学科の分離独立に伴ない、38年～39年にかけて、商学科の学生数が若干減少したためと考えられます。

＜昭和39年度館外貸出図書冊数（学生）＞

分類別	前年度	昭和39年度
0 総記	153	240
1 哲学	2,696	2,158
2 歴史	373	518
3 社会科学	6,325	7,396
4 自然科学	421	520
5 工学	152	151
6 産業	1,950	1,495
7 芸術	724	950
8 語学	570	485
9 文学	4,878	5,529
雑誌	621	403
計	18,863	19,845

一方、貸出冊数は、例年のように順調な伸びを示しているのがわかります。

ことに、社会科学・英文学などの専門書の貸出しが多いようです。

学生数の急増するにも拘らず、その収容座席数が変らないので次第に貸出図書館としての傾向が強くなっていくように見受けられます。

◇ あとがき

留学から帰られたばかりの原田先生から、早速アメリカの大学図書館についての原稿を頂き、深く感謝申し上げます。アメリカの図書館の充実発展ぶりは、実に素晴らしいもので、私共もそれへ向って努力しなければならぬことをいつも思わされます。ところで、最近の Time誌に「スケートする図書館員」というのがありました。デトロイト公共図書館では、書庫から本を出し入れするのに、館員がローラースケートをしているそうです。サービスのスピード・アップもここまでくると全く「オドロイト」というほかはありません。

(Y)